

水も貴重な資源です、大切に使いましょう！

シリーズ

家庭でできる温暖化防止④



節水するからできる
燃料の消費量削減について
考えてみました。

なぜ、節水するとCO₂削減につながるの？

水道水は川からポンプで水をくみ上げ浄水場でろ過し、ポンプで送り出して各家庭に届けられます。また、使用した水は下水処理場においてポンプでくみ上げ浄化され、ポンプで川へ放流されます。つまりこれらの過程でかなりの電力が使用されるからです。

取り組み1

風呂の残り湯を洗濯に使いましょ！

風呂の残り湯を洗濯や庭の水やりのほか、トイレの水などに使うことで水道水の使用量を減らすことができます。

風呂の残り湯50ℓと体を洗っている時の流しっぱなしのシャワーの使用分30ℓ（10ℓ/分で3人）を合わせて、年間約17kgのCO₂削減、約5,000円の節約になります。

取り組み2

洗濯は、なるべくまとめて洗う！

洗濯物を少しずつつごまめに洗うよりも、洗濯機の大きさに合わせてまとめて洗った方が、水と電気の節約になります。

容量6kgの洗濯機で、1日7.2kgの洗濯量を1日で2回に分けて洗濯していたものを、2日で3回に分けて洗濯した場合、年間約12kgのCO₂削減、約3,000円の節約になります。

●このコーナーは、環境課が担当します。内線304

考えよう。共生時代②

シリーズ

働くブラジル人、求める日本(上)

「なぜ、美濃加茂市にはブラジル人が多いのでしょうか。市内でよく日本人の人から、このように聞かれます。私たちブラジル人の多くは、日本人はその理由を当然分かっていると思っています。美濃加茂市の人口の約9%を占める外国人、そんな私たちを街中で見かけることはもはや日常となっている今でも、まだお互いの距離は縮まっていないのだと実感しました。日本に働きに来る一番の理由は、その人にとって、ブラジルより日本の方が給料が高いということです。日本で単純労働してもブラジルより稼げることができ、しかも貯金ができます。その貯金で、例えばブラジルでマイホームを購入したり、自営業をスタートしたりする資金として使用しています。

ところが、最近はブラジルに帰らないで永住権を取得し、日本で住宅も購入するなど、日本（美濃加茂市）に定住しようとするブラジル人も多く見られます。市民として生活していく上で、私たちは言葉の学習や生活のルール、子どもの教育のことなどを学びながら、地域での共生を目指していきたいと思っています。

今回は、ブラジル人が来日している理由などについて話しました。次回は、日本側の事情について説明したいと思います。

Bom Dia



「Bom Dia (ボン・ディア)」(ポルトガル語でおはようございますの意味)